

———— MW－ 1 1 0 0 0 S ————

ろ材交換説明書

製造元 株式会社 A C M

MW-11000Sろ材交換方法

1. ろ材交換に必要なもの

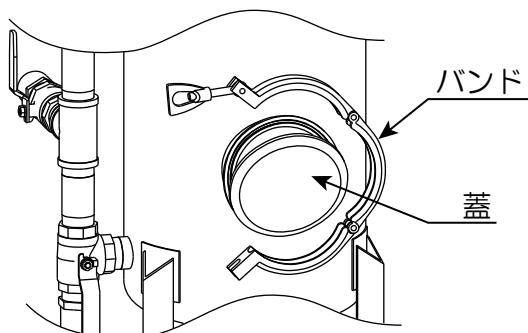
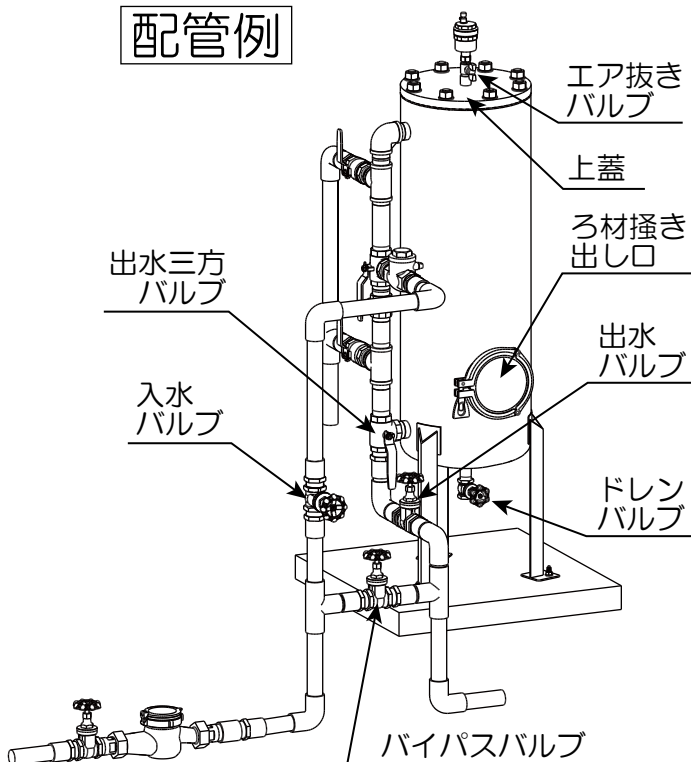
- ・モンキーレンチ（36mm以上のもの） 1本 …… 上蓋のナット脱着に使用します。
- ・マイナスドライバー 1本 …………… ろ材を入れる時等に使用します。
- ・70cm程度の棒 1本 …………… ろ材を入れる時に使用します。
- ・布テープ 1個 …………… ろ材を入れる時に使用します。
- ・小さなコップ 1個 …………… 水の検査で使用します。

2. ろ材を出す

配管例の入水バルブ、出水バルブ、バイパスバルブの位置は、設置場所の状況により異なります。

※バルブの開閉および方向は、バルブのレバーに明記してあります。

配管例

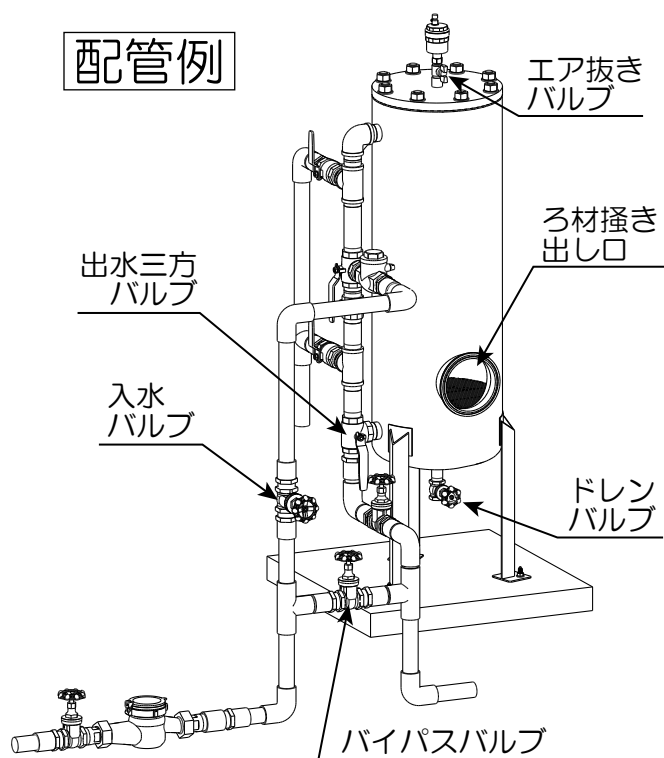


1. 『バイパスバルブ』を開ける。
2. 『入水バルブ』を閉める。
3. 『出水バルブ』を閉める。
4. 『出水三方バルブ』のレバーを縦にして、ろ過水の水流を上方向にする。
5. 機械底部の『ドレンバルブ』から、胴内の水を抜く。

『エア抜きバルブ』が閉じている場合は開ける。
6. 水の抜けたことを確認の上、モンキーレンチでナットを外し『上蓋』を開ける。

胴体と上蓋の間のパッキンが密着し、上蓋が動かない場合、マイナスドライバーをパッキンと上蓋の間に差し込んで開ける。
7. 『ろ材掻き出し口』のバンドを外し、蓋を開けて、ろ材を掻き出す。

配管例



8. ある程度ろ材が掻き出し終わったら、『入水バルブ』を少し開き、上部より水を入れて胴内のろ材をきれいに洗い流す。

注) この時、胴内底部にろ材が少しでも残った場合、室内にろ材が流れ込むので必ずきれいに洗い流してください。

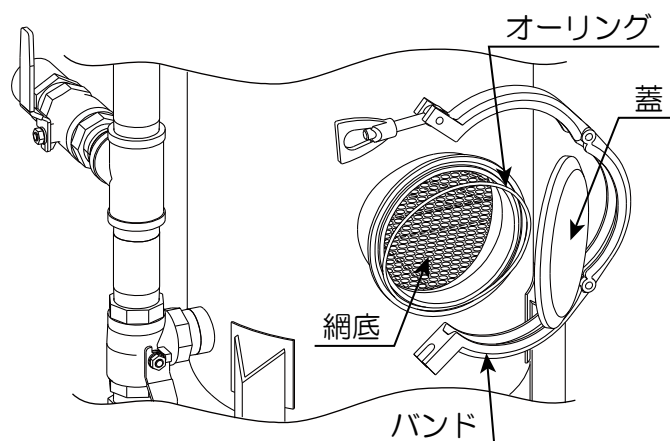
9. 胴内がきれいになったことを確認した上で、『入水バルブ』を閉じ、胴内の水が残らないように流す。

10. 胴内に水が無くなったことを確認して『ドレンバルブ』を閉める。

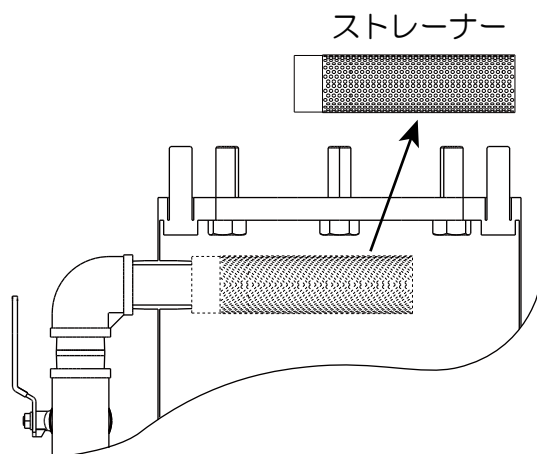
11. 胴内底部の網底を水平にし、『ろ材掻き出し口』の“オーリング溝”をきれいにし、“蓋”と“オーリング”をきれいに洗い、閉じる。

注) この時、オーリングがはみ出さないように蓋をセットし、バンドを締めてください。

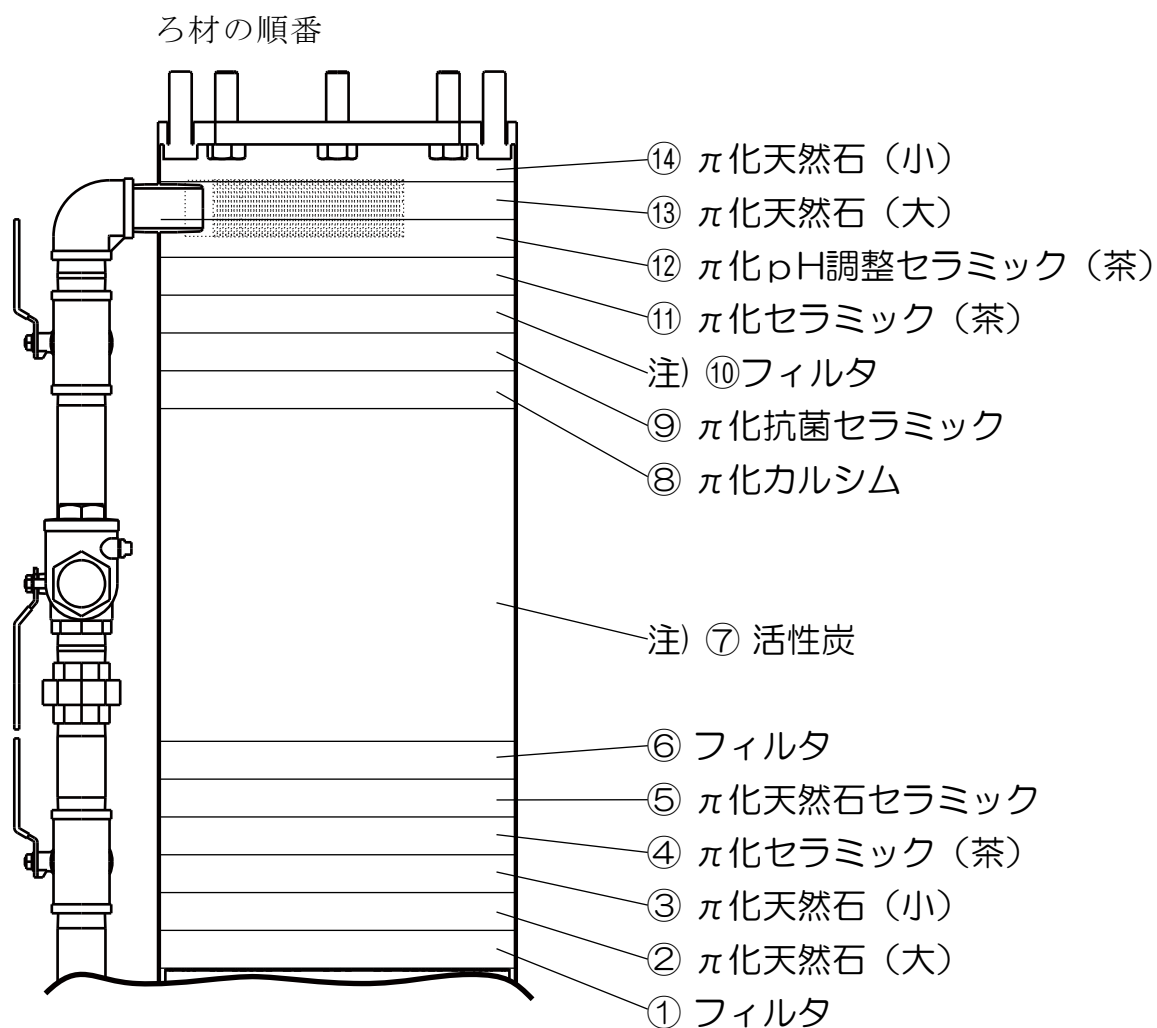
12. ろ材詰め作業に移ってください。



3. ろ材詰め



1. 『ストレーナー』を外し（ネジ式）、布テープで胴内のネジ込み穴をふさぐ。



2. 次の点に注意し、ろ材を順番通りに入れる。

- 各ろ材とも平らにならしてから、次のろ材を入れてください。
- 活性炭を入れた後、棒でつつき、活性炭層を少し沈ませてから次のろ材を入れてください。これを行わないと上部のろ材が入らないことがあります。
- ⑩のフィルタを入れた後、ストレーナー穴の布テープを剥がし『ストレーナー』を装着してください。
- ⑭の小粒のπ化天然石は全て入れなくても構いません。⑬の大粒π化天然石の隙間を埋める程度に入れてください。この時、マイナスドライバーを使い、胴内上部の端に埋め込むようにすると良いです。

3. 蓋を閉める。

本体上の円平に付いたろ材の粒をきれいに取り除いた上で、交換用パッキン（フランジパッキン）を装着する（ろ材の粒が残っていた場合、パッキンの隙間からの水漏れの原因となります）。その後、蓋を乗せてナットを対角線状に締める。

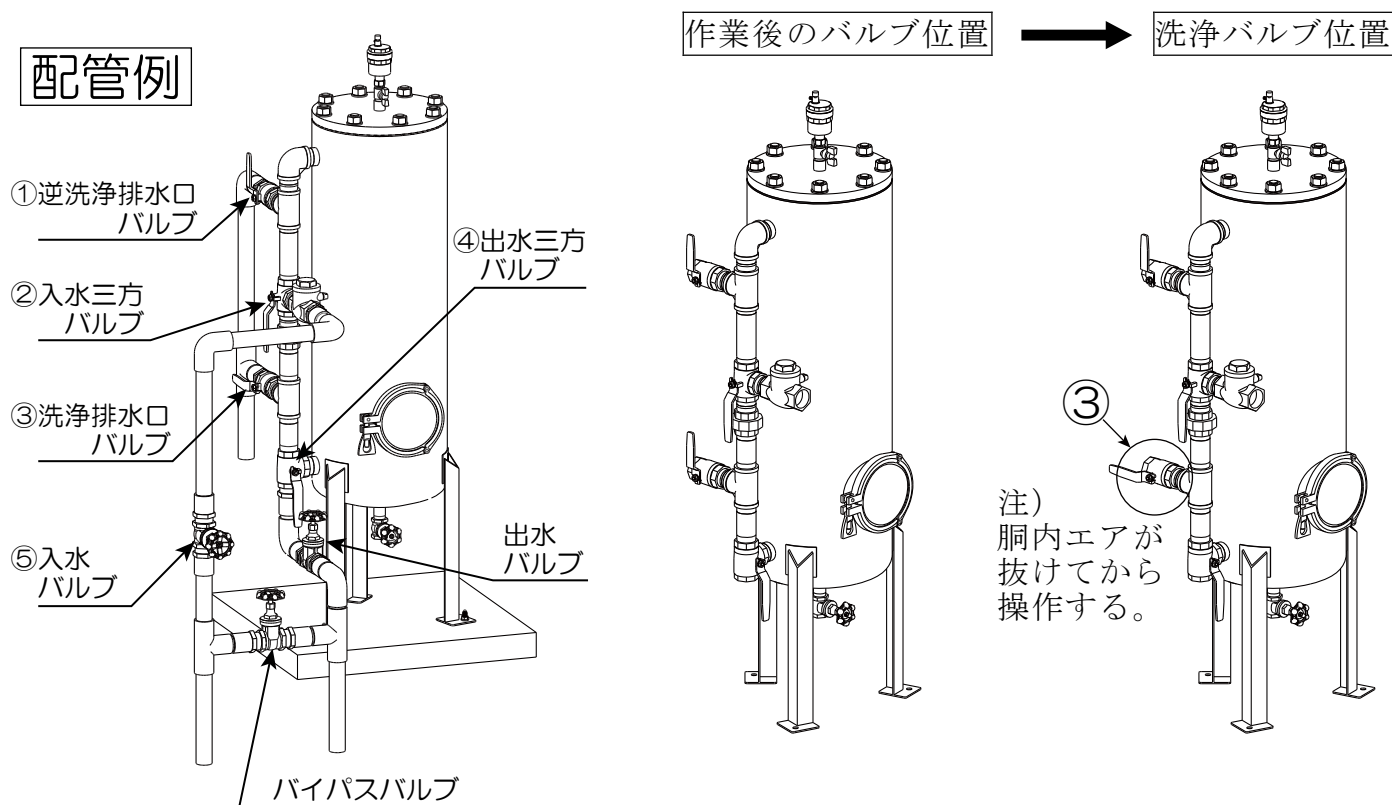
4. ネジを締め終わったら、洗浄運転を行う。

4. 洗浄運転

次の順序で行ってください。

1. ⑤の『入水バルブ』を開ける。
2. 下記のバルブ操作を行う。

洗浄運転の際は③の『洗浄排水バルブ』のレバーのみ操作すればOKです。



注) 洗浄の際、給水するといったん上部エア抜きからエアが抜けます（この時の③の『洗浄排水口バルブ』のレバー位置は作業後のバルブ位置です）。エアの抜ける音が止まってから1～2分お待ちください。

その後、③の『洗浄排水口バルブ』のレバーを横にし、胴内の溜まりエアを抜き（5分程度流す）、再び③の『洗浄排水口バルブ』のレバーを操作後のバルブ位置に戻してください。

そのあと、5分程度待ち、③の『洗浄排水口バルブ』のレバーを再び横にして洗浄を行ってください（これは胴内最上部まで水を溜めるためです。これを行わない場合、内部の汚れが完全に取りれません）。

この作業を3回行ってください。

3. ④の『出水三方バルブ』のレバーを横にして、ろ過水の水流を下方向にする。
4. 『出水バルブ』を開ける。
5. 『バイパスバルブ』を閉める。

5. 水の検査方法 (残留塩素測定試薬 使用)

これは浄水された水が正常であることを確認する検査です。



残留塩素測定試薬

確認方法

1. コップに浄水後の水（約50cc）をとります。
2. 付属部品の残留塩素測定試薬を1袋加えます。
3. かき混ぜて、無色透明であることを確認してください。
（判定は1分以内で行ってください。）

残留塩素測定試薬は、水道水の中に含まれている残留塩素の有無を測定する試薬です。塩素が残留していると試薬はピンクに変色します。

※但し、1分以上おくと残留塩素がない状態でも変色しますので、ご注意ください。



ご注意

- 試薬は直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい場所に保管してください。
- 品質保持のため、袋はご使用直前に開封してください。
- 試薬が変色したものはご使用にならないでください。
（保管状態により、試薬が白色から変色してしまうことがあります。）
- 検査後のコップの水はすみやかに捨てて、コップはよく洗ってからご使用ください。
- 残留塩素測定試薬および残留塩素測定試薬の入った水は、飲まないように注意してください。
- 試薬が手や皮膚についた場合は、よく洗い流してください。
- 万一、目や口に入った場合は、よく水洗いした後、医師にご相談ください。
- 乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

ご不明な点がございましたら下記にご連絡下さい。

製造元

株式会社 **エイ・シー・エム**

〒130-0026 東京都墨田区両国4-8-10

TEL 03-3634-7373

FAX 03-3634-7384